

平成 27 年度飯山市美術館運営協議会（第 1 回）

日時 H27. 6. 19 (金) 15:00～

場所 飯山市公民館 201 会議室

1 開 会

2 辞令交付

3 あいさつ

・館 長

4 自己紹介

5 会長選出

会長 \_\_\_\_\_ 会長職務代理 \_\_\_\_\_

6 会長、会長職務代理あいさつ

7 協議事項

(1) 平成 26 年度事業報告について

(2) 平成 27 年度事業計画について

(3) 平成 28 年度以降の企画展について

(4) 作品寄付受け入れについて

(5) その他

8 そ の 他

9 閉 会

平成 27 年度飯山市美術館運営協議会委員名簿

美術館運営協議会委員（敬称略）

	氏 名	備 考
1	森崎 鉄兵	社会教育委員
2	油科 淳太郎	有識者
3	上海 一徳	飯山仏壇事業協同組合
4	阿部 一義	内山紙協同組合
5	千坂 経悦	飯山市高校美術科担当者会
6	吉越 薩師	飯山市芸術文化協会会长
7	小林 芳裕	校長会
8	高杉 令子	飯山市芸術文化協会

教育委員会関係者

1	教 育 長	長瀬 哲
2	文化振興部長（兼）文化交流課 長（兼）美術館長	石田 一彦
3	施設係長	井端 伸介
4	職 員（学芸員）	宇敷 恵子
5	職 員	木村 友子

(1) 平成26年度事業報告

事 業 名		内 容 等	期 間 等	入館者数等
管理運営	第1回運営協議会開催	H26年度計画等について協議・了承	6/18(水)開催	
	第2回運営協議会開催	H26年度報告・H27計画等について	2/26(金)開催	
	警備委託	夜間の機械警備を委託	H26.4.1～H27.3.31	
	清掃用品借上げ	日常清掃のための用具借り上げ	H26.4.1～H27.3.31	
	受付業務委託	受付カウンター業務を月7日委託	H26.4.1～H27.3.31	
常 設 展 示		飯山市出身あるいはゆかりの芸術家で、これまで企画展を開催した画家の作品を中心に展示。美術館収蔵品及び60～70点を展示。秋の企画展終了後からは新幹線飯山駅開業に先立ち、「ありふれた風景が宝モノ」をテーマに、当地ゆかりの美術家たちの眼を通して映し出された飯山の風景画を中心に紹介している。	*市民芸術祭後～秋の企画展前 4/15～9/17 *秋の企画展後～ 11/11～H27.4/9	4月～3月末 総入館者数 6,764名
企 画 展	企画展 没後10年記念展 『ガジン 長谷川青澄』	飯山市を代表する日本画家・長谷川青澄氏の没後10年を記念して企画展を開催。院展出品の大作のほか、挿絵原画などの小品、また氏の人柄を垣間見ることができる貴重な資料等も公開し、自らを画人と称するにこだわった氏の画業を振り返る内容とした。  会期中、総合学習センターフェスティバルの催しとして、「クイズ 答えは作品の中」を実施。	会期 9/20～11/9  10/4～10/5 開催 ※この2日間は入館無料	会期中 入館者数 1,797名  10/4～5入館者数 426名 ※1,797名の内数
	ギャラリー企画展 『追悼・岩上隆静展-上流から下流まで213.6kmふるさとの四季-』	2013年3月に惜しまれつつ逝去された岩上隆静氏の作品のうち、「画文集 千曲川」の原画となつた作品約40点を展示。	会期 4/15～6/1	会期中 入館者数 980名
	ギャラリー企画展 『Shadows on the Trails 藤巻 翔 写真展』	飯山市出身で、世界を舞台に活躍する“アウトドアフォトグラファー”藤巻翔氏の写真展を開催。	会期 7/19～8/23	会期中 入館者数 1,099名
美術教室	ギャラリー企画展 『城南・城北中学校美術部展』	今年で5回目の城南・城北中学校美術部合同の作品展。両校部員51名の作品を展示し、日頃の活動の成果を紹介した。	会期 11/16～12/21	会期中 入館者数 379名
	ワークショップ 『プロフェッショナルに学ぶテクニカル講座～イラストを水彩絵具で仕上げる～』	小学校高学年から高校生までを対象に、専門家から技術的な指導を受けた。今回は、イラストを水彩絵具で仕上げることを最終目的とし、水彩絵具の扱いをゼロから学んだ。講師は昨年に引き続き、イラストレーターの柳澤秀紀氏に依頼。	1回目 8/7  2回目 8/10	参加 9名  参加 6名

(1) 平成26年度事業報告

事 業 名		内 容 等	期 間 等	入館者数等
美 術 教 室	夏休み体験教室 『ハッて!はって!!貼って!!!ランプシェード』	色和紙と小枝とクラフト紐で作るランプシェード。いろんな色和紙を貼り重ねることでうまれる深い色合いに光を添えて、夏の夜をふんわりと演出。	7/30	参加 16名
	春休み体験教室 『ぬって!塗って!!土!?ランプシェード』	小枝と和紙で作るランプシェードに、飯山市内で集めた土を絵具にして色をつけてみる。	3/26	参加 13名

# 平成26年度 月別利用状況

上段=入館者数・下段=入館料

飯山市美術館・伝統産業会館

月	個人		団体		共通個人		共通団体		4館共通個人		4館共通団体		有料入館合計	無料入館		総入館合計	累計
	大人	小中	大人	小中	大人	小中	大人	小中	大人	小中	大人	小中		大人	小中		
	@300	@200	@200	@100	@240	@160	@170	@80	@240	@160	@170	@80		大人	小中		
4月	94	1	25	0	8	2	20	0	59	0	0	0	209	546	25	780	
	28,200	200	5,000		1,920	320	3,400	0	14,160				53,200				
5月	214	4	0	0	30	2	0	0	192	5	0	0	447	169	4	620	1,400
	64,200	800	0	0	7,200	320	0	0	46,080	800			119,400				
6月	35	0	2	0	30	0	0	0	84	0	46	3	200	68	1	269	1,669
	10,500	0	400	0	7,200	0	0	0	20,160	0	7,820	240	46,320				
7月	226	9	0	0	40	0	23	0	100	3	0	108	509	261	133	903	2,572
	67,800	1,800	0	0	9,600	0	3,910	0	24,000	480	0	8,640	116,230				
8月	311	17	0	0	41	0	0	0	133	12	0	99	613	197	24	834	3,406
	93,300	3,400	0	0	9,840	0	0	0	31,920	1,920	0	7,920	148,300				
9月	64	0	38	0	30	0	32	311	67	0	24	0	566	255	1	822	4,228
	19,200	0	7,600	0	7,200	0	5,440	24,880	16,080	0	4,080	0	84,480				
10月	86	0	33	112	25	0	56	149	148	13	43	0	665	349	175	1,189	5,417
	25,800	0	6,600	11,200	6,000	0	9,520	11,920	35,520	2,080	7,310	0	115,950				
11月	88	5	24	0	31	3	0	0	110	5	0	0	266	146	74	486	5,903
	26,400	1,000	4,800	0	7,440	480	0	0	26,400	800	0	0	67,320				
12月	20	13	35	0	2	0	0	0	6	0	0	0	76	61	34	171	6,074
	6,000	2,600	7,000	0	480	0	0	0	1,440	0	0	0	17,520				
1月	15	0	1	0	2	0	0	0	9	0	0	0	27	79	12	118	6,192
	4,500		200	0	480	0	0	0	2,160	0	0	0	7,340				
2月	19	2	1	0	2	1	0	0	33	1	0	0	59	58	3	120	6,312
	5,700	400	200	0	480	160	0	0	7,920	160	0	0	15,020				
3月	27	0	20	0	17	3	0	0	52	2	0	0	121	301	30	452	6,784
	8,100	0	4,000	0	4,080		0	0	12,480	320	0	0	28,980				
合計	1,199	51	179	112	258	11	131	460	993	41	113	210	3,758	2,490	516	6,764	H9~158283人
	359,700	10,200	35,800	11,200	61,920	1,760	22,270	36,800	238,320	6,560	19,210	16,800	820,540				

※市内小中 483人 市外小中 876人  
※学習見学での来館 10校

## (2) 平成 27 年度事業計画について

### 1 常設展示

内容： 飯山市出身あるいはゆかりの美術家及び企画展を開催した美術家の作品を中心として常設展示を行う。美術館収蔵品及び借用作品を合わせて 60～70 点を常設展示する。

期間： 企画展の開催期間を除いた期間

### 2 企画展

#### (1) 名称： 「Beyond the paper やまふところ 和紙 | 斎藤一郎展」

期間： 平成 27 年 4 月 18 日（土）～6 月 28 日（日）

内容： 北陸新幹線開業後の最初の企画展として、日本を代表する現代和紙作家・斎藤一郎氏（岡山地区出身）の企画展を開催し、飯山を軸に地場産業から発展した和紙の創造芸術をあらためて発信する。また、和紙の里として造形作品の芸術性の高さを広く知ってもらうこと、地元の伝統工芸を見直し再評価につなぐ機会とする。

#### (2) 名称： 「北陸新幹線開業記念 栗田貞多男写真展」 ※資料回覧

期間： 平成 27 年 9 月 19 日（土）～10 月 16 日（金）

内容： 長野の自然、特に各地域の山々を撮り続ける栗田貞多男の北陸新幹線沿線の風景写真を紹介します。自然現象を丁寧にとらえた写真で沿線各地をめぐります。

備考： 当初「北陸新幹線 エンセン美術館」展を予定・準備していましたが、予算的な都合等により上記内容に変更。

### 3 ギャラリー企画展等

方針： 市出身作家はもちろん市内外の作家も積極的に紹介し、施設の活性化を図る。

#### (1) 名称： 「第 35 回飯山市民芸術祭」

期間： 4 月 11 日（土）・12 日（日）

内容： 市民芸術祭の会場の一部として、展示室・ロビー・ギャラリーに絵画（水彩・油彩・水墨・日本画）・書道・華道・その他の作品を展示する。

備考： 4 月 10 日（金）午後 常設展示作品撤収及び市民芸術祭出品作品展示作業  
4 月 12 日（日）午後 5 時～ 出品者による展示作品撤収

#### (2) 名称： 「第 6 回城南・城北中学校美術部展」

期間： （案）10 月 18 日（日）～11 月 8 日（日）

内容： 城南・城北中学校美術部員の日頃の活動成果を発表する合同展。

(3) 名称： 登録社会教育団体ギャラリー展

内容： 美術館ギャラリー及びロビーを身近な作品発表の場として広く活用を図ると共に、地域に根ざした芸術活動を行う団体の制作意欲の励みの場、あるいは活性化に寄与するため、登録社会教育団体と飯山市美術館共催による作品展を行う。

※該当する団体へ呼びかけを続け、希望があった場合は日程調整をしながら開催に向け話を進めたい。

#### 4 美術教室・ワークショップ等

◆ 「Beyond the paper やまふところ 和紙 | 斎藤一郎展」関連企画

**ワークショップ**

内山紙の手漉きを体験したり、土で塗料を作つて様々な方法で和紙に色付けを行う。斎藤氏の作品の一端に触れながら、鑑賞と体験を楽しむ。(実施済み)

(1) 内山紙・手漉き体験《講師：飯山和紙研究会》

日 時 平成 27 年 4 月 25 日 (土) 9:30~16:30

場 所 飯山手すき和紙体験工房

定 員 15 名 (当日の参加者 6 名)

参加費 1,000 円

(2) 泥 ing (ドローイング) ~先祖への思いをつなげる~《講師：斎藤一郎氏》

日 時 平成 27 年 4 月 26 日 (日) 13:30~17:00

場 所 飯山市美術館

定 員 15 名 (当日の参加者 21 名)

参加費 1,000 円

※①・②とも、参加対象は小学生以上。(小学 3 年生以下は保護者同伴)

**ギャラリートーク**

斎藤氏自らが作品解説を行う。

日 時 平成 27 年 6 月 6 日 (土) 14:00~15:00

場 所 飯山市美術館 展示室

参加費 無料 ※ただし、美術館入館料は必要 (当日の参加者約 30 名)

**夏休み・春休み体験教室**

市公民館主催により小中学生の夏休みと春休み期間中に計画される体験教室で、美術・図工関連企画立案と運営に関わる。

### (1) 夏休み体験教室

名称： 「泥 ingによるランプシェード」

日時： 平成 27 年 7 月 31 日（金） 午前 9 時半から

内容： 内山紙に飯山の土で作った泥絵具でドローイングを行い、オリジナルのランプシェードをつくる。

定員： 15 名（ただし、小学生以上）

※飯山市、飯山市美術館を特徴づける継続した取組の一環として実施する。

### (2) 春休み体験教室

予定： 夏休み体験教室と同様、美術館を特徴づけるテーマで内容を検討する。

## 5 五郷研修館の活用・連携

方針： 県外在住の芸術家を支援し、美術館活動の活性化に繋げる。

※今後の利用状況をみながら関わり方を検討していきたい。

内容： 平成 14 年度から継続。不定期に飯山を訪れ、絵画作品などを制作（制作場所：五郷研修館）。

研修館を使用している美術家

○原田卓三（大阪府在住、東京芸術大学大学院修了、独立行政法人造幣局）

○瀬島 匠（東京都在住、武蔵野美術大学卒、東北芸術工科大学准教授教授）

○内田 寛（絵画、愛知県在住、名古屋芸術大学卒）

○星 晃（日本画 埼玉県生まれ 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒）

# 平成 27 年度飯山市美術館企画展『Beyond the paper やまふところ 和紙 | 斎藤一郎展』

## ワークショップ実施報告

2015/5/6 飯山市美術館

### 1. 日時

- ・内山紙手漉き体験 平成 27 年 4 月 25 日(土) 9:30~16:00 (予定より早く終了)
- ・泥 ing～先祖への思いをつなげる～ 平成 27 年 4 月 26 日(日) 13:30~16:30 (予定より早く終了)

### 2. 参加者

- ・内山紙手漉き体験 6 名 (市内参加者 3 名ほか他市県者) \*定員 15 名
- ・泥 ing 21 名 (市内参加者 3 名うち 2 名小人ほか他市県者) \*定員 15 名

### 3. 開催目的と内容 \*開催次第は別紙 1 参照

- ・本企画展出品作品の約 8 割が、土を直接漉き込んで着色したものである。今回は地元の「土」で絵具を作り、和紙に模様や図柄を描くことで作家の制作活動の一端に触れ、作品鑑賞をより深めることを目的とした。また、内山紙の里にある美術館として、和紙をより深く知ってもらい、その魅力を堪能してもらうことで、和紙の再評価と価値の向上につなげたい。

#### 3.1 内山紙・手漉き体験

- ・日本の手漉き和紙技術がユネスコの無形文化遺産に登録されたことにより、全国的に和紙への関心が高まっているなか、地元飯山の伝統的工芸品である内山紙について広く知ってもらうことを目的として開催した。
- ・各地の和紙について深い知見のある斎藤氏が、内山紙については故郷の伝統的工芸品というだけでなく、質の良さやその特性から特別な思い入れがあり、当館ワークショップでも『泥 ing』と併せて内山紙の手漉き体験を実施し、地元の人のみならず、内山紙を全国へ発信したいという斎藤氏の意向により開催することとなった。

#### 3.2 泥 ing

- ・絵を描くことや抽象絵画が苦手だと思っている人こそ楽しく体験してほしいという考え方から、具体的な対象物を描くのではなく、土を精製して作った絵具を和紙に垂らしたり(ポーリング)、飛び散らせたり(スペッタリング)することで偶発的に生まれる表現を楽しむ講座とした。技法の特性上、塗料が飛散する方向やその効果は予測ができないものであり、そうした偶然性を存分に楽しむことを通じて、抽象絵画を心で味わうという鑑賞を体感してもらうことを目的とした。
- ・使用する土は、飯山市内より採集した土と飯山市外の土(客土)を使った。  
地元の土で塗ったあとに、アクセントの色として客土を使うという斎藤先生の意向によるもの。客土は、斎藤先生のほか大因州製紙協業組合、柳澤秀紀氏よりご提供いただいた。また、参加者である日本画家の柴田長俊氏より、自ら採取・加工したという岩絵具をご提供いただいた。
- ・塗ったときの感触や効果を楽しむため、土を塗る支持体として新聞紙、水彩紙、ケント紙、内山紙(2種類/ドーサ引き&未処理)の 5 種類の紙を用意した。新聞紙は印刷色を効果的に活

用するため、広告面などデザイン性の高いものを齋藤先生が選別した。

- ・冒頭では使用する土や客土のこと、永きにわたる生活の営みにより先祖から引き継がれてきた土壤についてなど、齋藤氏よりお話しいただいた。

#### 4. 成果

##### 4.1 内山紙・手漉き体験

- ・手漉き体験は申込者のキャンセルが相次ぎ、当日は5名の参加となった。  
参加者のうち初めて紙漉きをしたという2名は、飯山和紙研究会会長による和紙の加工工程の話に興味深く耳を傾けていた。
- ・参加者は少なかったが、全員が講師から丁寧な指導を受けることができ、存分に手漉き体験を楽しむことができたようであった。

##### 4.2 泥 ing

- ・参加者の多くが土を絵具にして使うということに关心が高かったようであり、定員を越えての申し込みがあった。自宅近くの土を持参する参加者もいた(2名)。
- ・齋藤氏が冒頭で、自身の作品に使用した土が飯山市内の土であること、またその土をワークショップでも使用することなど『土』について話すと、参加者はこれまで抱いていた土に対する意識に変化があらわれたようで、土の色の豊富さに感心しながら、土の絵具を熱心に吟味する姿が印象的であった。
- ・具体的な対象物を描くことをしないという主旨は、参加者にとって抵抗なくドローイングに取り組めたようで、子供も大人もそれぞれに楽しんでいた。また、各作品の制作を2段階(地塗り/仕上げ)に分け、土に混ぜた接着剤の特性による絵具の使い分け、塗り方等について齋藤氏から丁寧な指導を受けることができ、全員が個性の活かされた完成度の高い作品として仕上げられたことも、参加者にとって達成感へつながったようである。

##### 4.3 総評

ワークショップ参加者のうち飯山市内の人にはほとんどいなかった。手漉き和紙技術がユネスコの無形文化遺産に登録されたことにより、全国的に和紙への関心が高まり再評価するという機運は以前より高まったかもしれないが、齋藤氏の意向により『泥 ing』と併せて内山紙の手漉き体験を企画したものの、単なる『内山紙・手漉き体験』という企画では内山紙への関心を高める契機とはならず、参加者は定員を大きく下回った。それと比べて『泥 ing』では、齋藤氏の作品制作の一端に触れられることや、土を絵具として使用するという内容に高い関心が集まり、参加者は定員を上回った。材質の違いによる感触を楽しむという目的で複数の紙をそろえたが、種類が多いこと、参加人数が多いこと、時間的な制限による焦燥感から作業の進行が円滑に進められず、本企画展やワークショップ開催の根底にある『地元の伝統的工芸品・内山紙の再興』ということを十分に伝えられなかつた。

今回のワークショップが、内山紙に対する再評価や価値の向上に結果として反映されるのは今後のことでの予測が不可能だが、募集期間中の反応を振りかえって、手漉き体験そのものに対する反応は鈍いと感じた。全国各地の有名な和紙産地では、手漉き体験施設に体験者が殺到したり、ユネスコの登録以前と比べて利用者が増加しているという話を聞くが、内山紙が産業として衰退するにつれて

知名度が低くなっていることを鑑みると、単なる「内山紙の手漉き体験」という発信の仕方では成果につながらないと感じた。

## 5. 課題

- ・今回のワークショップを一過性のものとして終えるのではなく、本企画展で掲げる「内山紙に対する再評価や価値の向上」という目標を軸に、『内山紙手漉き体験』と『泥 ing』で培った経験を総合的に活かし、今後も活動を継続し、将来的には内山紙の産地であることを活かした特色ある美術館として発信できるようにしたい。
- ・まずは飯山の伝統的工芸品である内山紙に対する世間（市民）の意識を改めて確認し、内山紙の知名度を上げる得策を検討し、先行して実施していくことが必要であると考える。

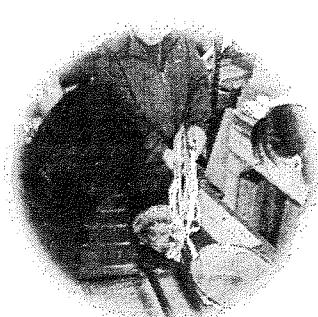
## 【記録写真】

### 1. 内山紙・手漉き体験 2015/4/25 @工芸交流センター1F(飯山手すき和紙体験工房)

#### 1.1 飯山和紙研究会会長のお話 (楮の加工工程について)



A 刈り取った楮の皮をむき、表皮を矧ぐ

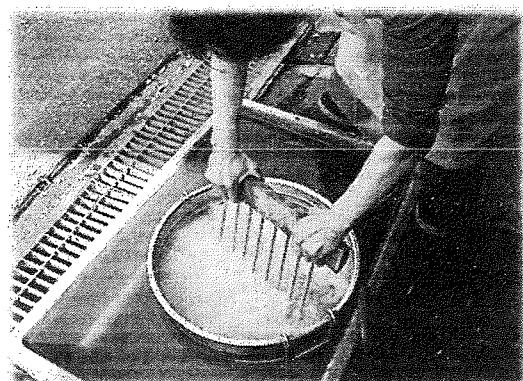


B 雪さらしをした楮

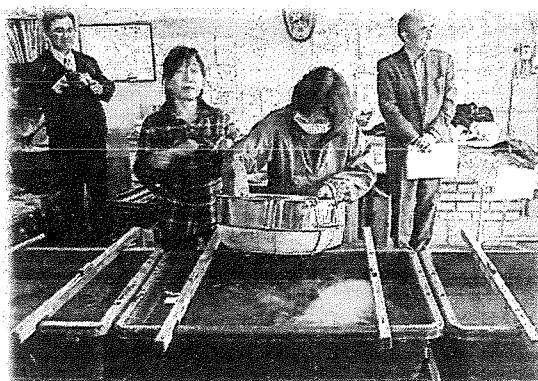


C 打解処理した楮

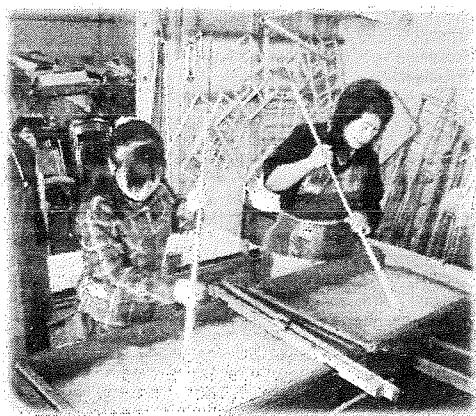
#### 1.2 材料の準備



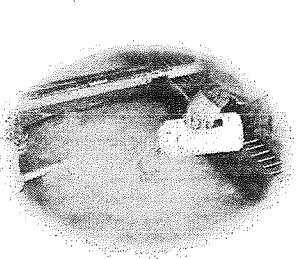
A 打解した楮の纖維をほぐす



B ほぐした楮の纖維を漉き舟に入れる

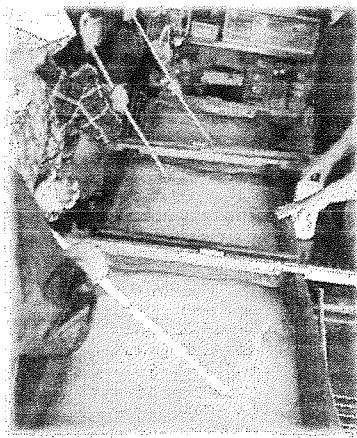


C 楮の纖維を拡散させる(水を切るように)



【ネリを入れる】

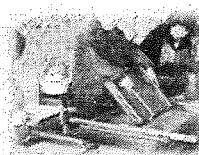
粘度を上げて、漉き舟の中で楮を均一に浮遊させるために入れる。今回は科学ネリを使用した。



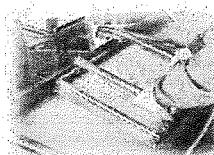
D 搅拌する。

▼ネリの混入により粘度が高くなり、水の抵抗が増し、攪拌が困難になります。

#### 1.3 手漉き体験 (飯山和紙研究会会長の実演後、参加者が体験)



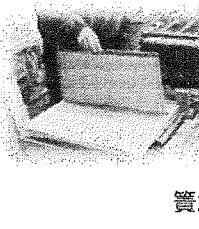
【化粧漉き】  
簀に膜を作る



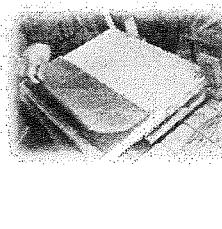
【流し漉き】  
楮を縦横に動かす



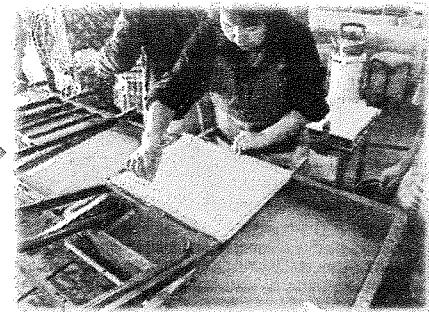
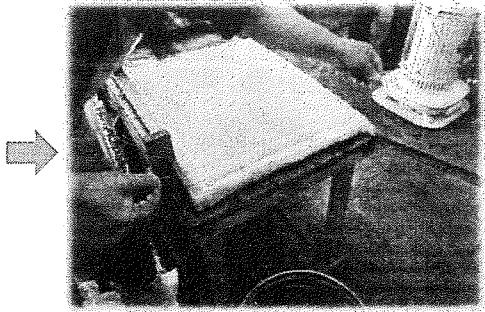
簀を楮から外す



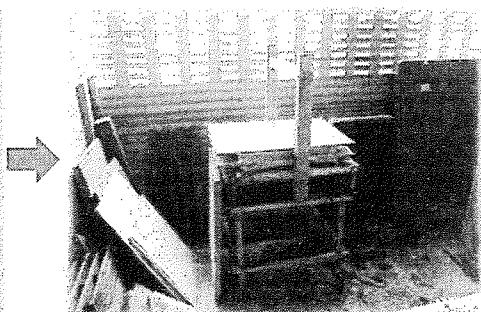
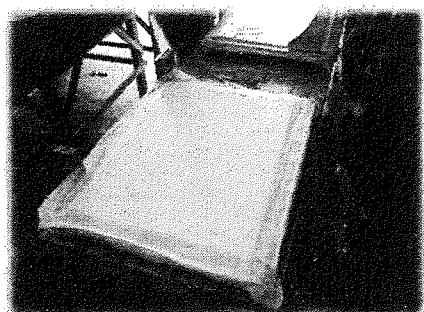
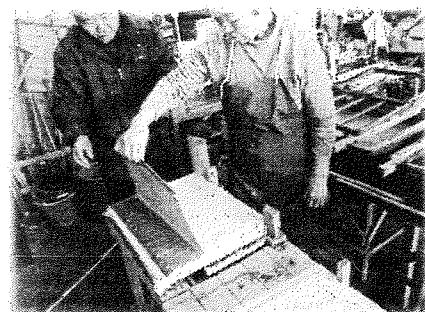
簀から纖維を剥がす



▼参加者による体験

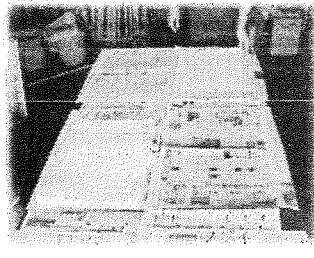
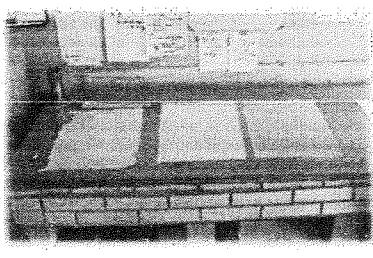
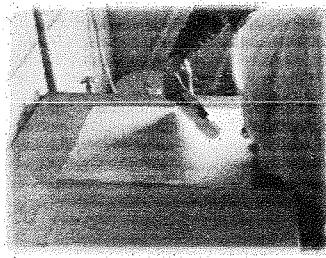
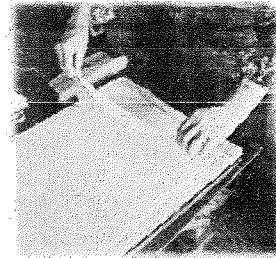


1枚ごとの繊維の境目に糸をはさむ



参加者ごとに布を重ねて区別する

【乾燥作業】



参加者全員の紙を脱水 (約 1 時間)

糸をたよりに 1枚ずつ剥がして加熱した乾燥台に広げる。乾燥後は剥がして熱を冷ます。

2. 泥 ing～先祖への思いをつなげる～ @飯山市美術館 1F ロビー

2.1 当日準備



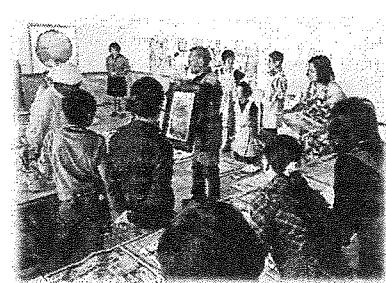
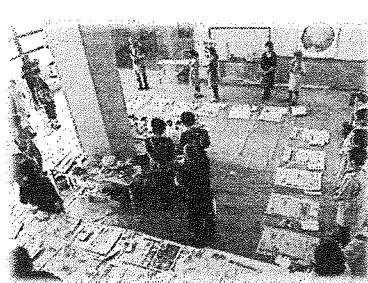
- ・使用する土は斎藤氏が事前に選抜し、開会前に指定の固着剤で土を溶き、絵具を作成しておいた。



- ・飯山市内の土と客土を分けて配置し、斎藤氏の指示により開会時は客土を隠しておいた。(市内の土による地塗りが終わった後に、アクセントの色として仕上げに客土を使うよう指導があった)

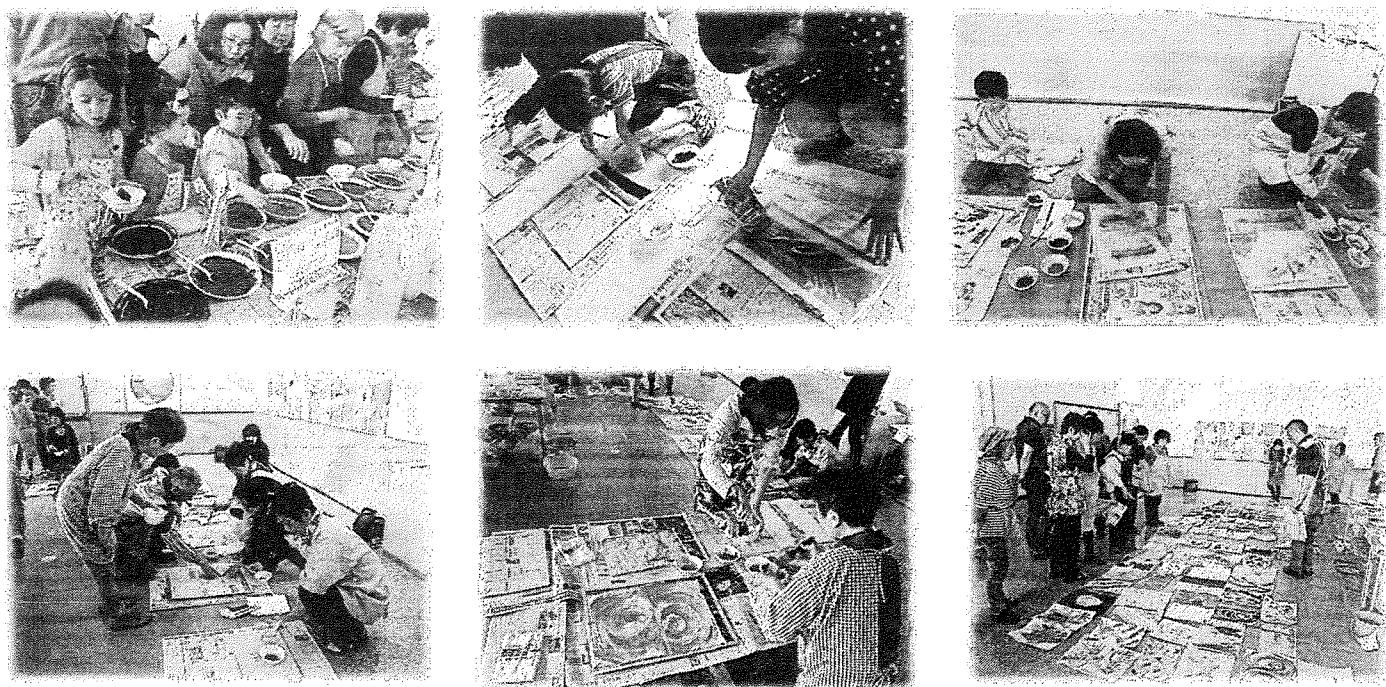


2.2 開会と斎藤一郎氏によるお話



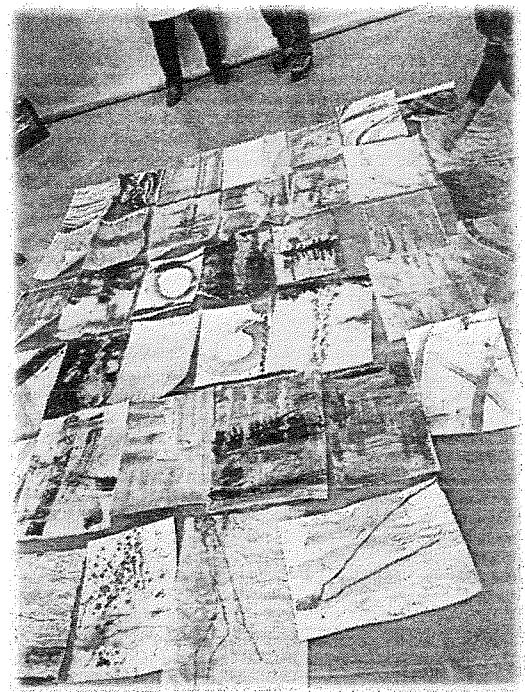
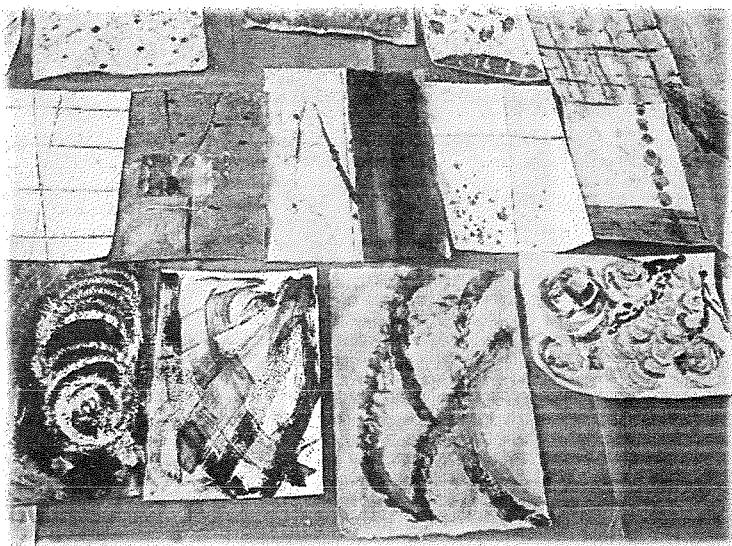
- ・講師紹介のあと、斎藤一郎氏奥様による図録掲載文の朗読があり、ワークショップの内容を話した。  
また、企画展出品作品を参加者に見せながら土について話した。

## 2.3 作業開始



斎藤氏による講評

## 2.3 参加者の作品



・参加者には作品を1枚ずつ提供してもらい、斎藤氏がトリミング、コラージュを行った後に、ロビーへ展示する予定。

平成 27 年度飯山市美術館企画展『Beyond the paper やまふところ 和紙 | 斎藤一郎展』ワークショップ  
事前準備実施記録「市内土採集・加工作業」

地元の土で絵具を作るという主旨で開催するワークショップ『泥 ing～先祖への思いをつなげる～』の準備として、下記のとおり市内各地より土を採集した。絵具づくりに適した土質や土の色味等については、黒土、赤土、黄土、白土、緑土など色の種類は多いほどよく、粘土質のものが適しており、使用感がよいと斎藤一郎氏より指導を受け、市報・ガルーン掲示板などで土の情報収集を行い、寄せられた情報をもとに採集地を決定した。

#### 1. 日時

- ・土採集 平成 27 年 10 月 17 日(金) 午前 9 時～午後 3 時
- ・加工作業 同 10 月 22 日(水) 午前 9 時～12 時 @飯山市公民館 101 室

#### 2. 参加者

- ・柳澤秀紀氏（絵具に適した土質等を指導/斎藤一郎氏の制作に関わる/イラストレーター）
- ・清水岩夫前教育委員長（採集地の地質について指導/あらゆる土質とその所在地に詳しい）
- ・和紙研究会会員 5 名（ワークショップの協力員として参加）
- ・服部前美術館長、武田前学習支援課長（採取地周辺の地理に詳しい）
- ・美術館職員 2 名（手塚、宇敷）

#### 3. 採集地 \*別途地図参照

- ①飯山市大字旭字北ノ入 (白土/黒土/富倉峠)…火山灰の凝灰岩が風化して細かくなったようなもの
- ②飯山市大字旭字後沢 (白土/シルト/大川地区; 旧大川保育園裏山)
- ③飯山市大字飯山字池ノ平 (赤土/黄土/白土/旧国際スキー場跡地/土の色味 20 種類以上)
- ④飯山市大字緑字風上 (赤土/中条集落の西側の山。風上の峯)
- ⑤飯山市大字緑字鶯 (黄土/粘土質/中条集落の北西の嶺)

\*採集した量は、多くてスコップ(ケンスコ)2 杯程度

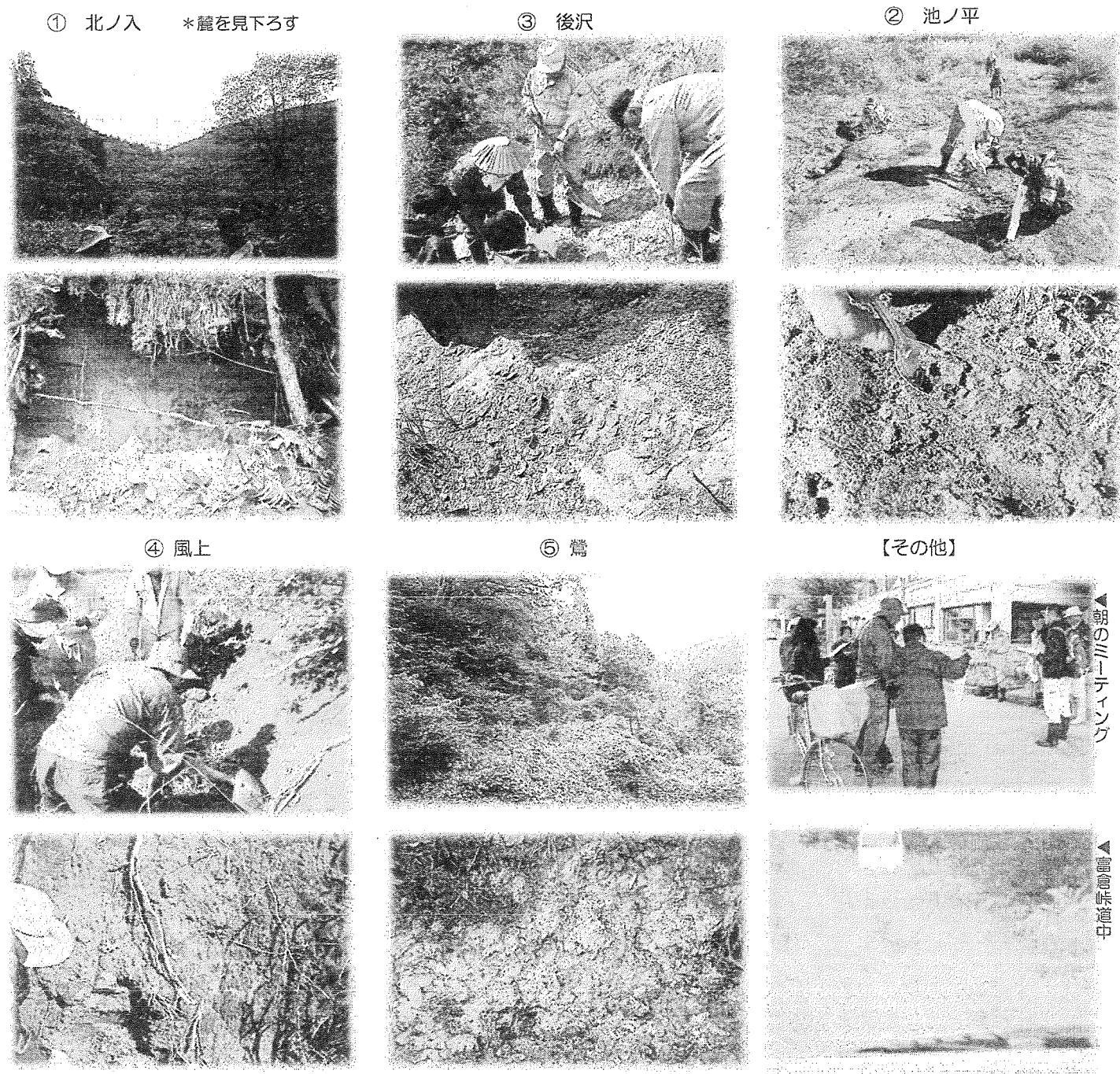
\*④風上は、北ノ入からの移動中に道路沿い斜面が崩れているのを発見し、色味の強い赤土であったため急遽採集することとなった。

\*⑤鶯は、服部前館長が学生の頃(50 年前頃)に、陶芸用粘土として授業で採集していたとの記憶から、絵具づくりに適した粘土質が期待されたため、採集することとなった。

#### 4. 土採集の方法

- ・広い範囲での採集は、スコップですくい土嚢袋もしくは肥料袋に入れる(最大スコップ 2 杯程度)
- ・少量の採集はティースプーンで搔き取り、小さいナイロン袋に入れ。
- ・採集時は、色味の違う周辺の土と混じらないように配慮した。
- ・石のように固い地面はツルハシ(小)で碎いて採集した。\*ツルハシは清水岩夫氏所有物
- ・池ノ平では、特徴的な色をした土を探し、局所から少量ずつ採集した。

#### 4.1 土採集の様子と採集時の土の色



#### 5. 土採集の成果

- ・当初は『3. 採集地①～③』の三ヵ所を予定していたが、山中の移動中に発見した土(④)や服部前館長からの情報(⑤)もあり、市内 5 カ所で土の採集ができた。
- ・赤土、黄土が多く、黒土はなかった。採集した白土は、いずれも粘性がほとんどなく、絵具には向きとのことであった。
- ・池の平では、狭い範囲で様々な色味の土が採集できた(ただし少量)。
- ・全部で 30 種類以上の土が集まった。ひとつとして同じ色の土はなく、同系色であってもわずかに色味に差があり、貴重な試料となった。ただし、色味のバリエーションは少なく、黄土～赤土が大半であった。

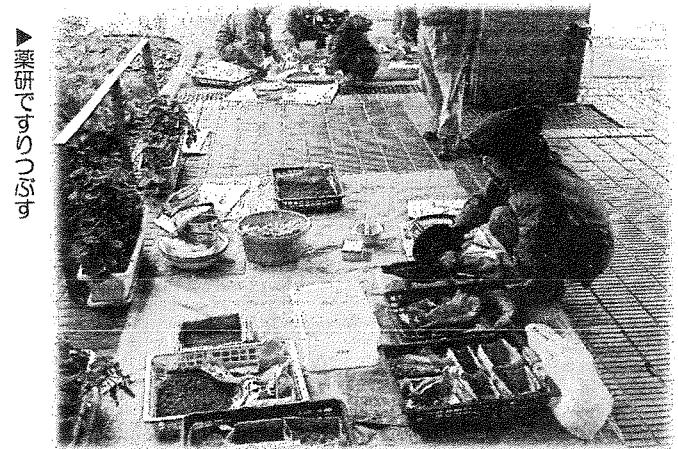
#### 6. 加工作業 \*10月22日(水) 午前9時～12時 @飯山市公民館101室

- ・土を手や木づちで砕いて細かくし、新聞紙を敷いたバットの上に広げて乾燥させた(約 1 ヶ月間陰干し)

- ・バットに敷いた新聞紙は、水分を吸収したら交換し、乾燥した土から加工作業を開始した。
- ・ザルで土を粗くふるい、薬研で粉碎した。その後、調理用粉ふるいでふるい、乳鉢ですりつぶした。
- ・乾燥した土は蓋付きの瓶に入れて保管し、ワークショップ当日までに粉碎を終えた。



【木づちや石による粉碎】



- ・平成 27 年 3 月 19 日に、齋藤一郎氏指導のもと、ワークショップの練習をした。土で絵具を作り、内山紙、新聞紙、ケント紙、水彩紙に塗布し、使用感などを確認した上で、土に混ぜる固着剤、定着剤などを検討した。ワークショップで使用する土を齋藤氏に選定してもらった。



【齋藤氏が選定した土】  
＊固着剤を混ぜた状態



【齋藤氏による試作】



平成 27 年度飯山市美術館企画展『Beyond the paper やまふところ 和紙 | 斎藤一郎展』  
ギャラリートーク実施報告

2015/6/14 飯山市美術館

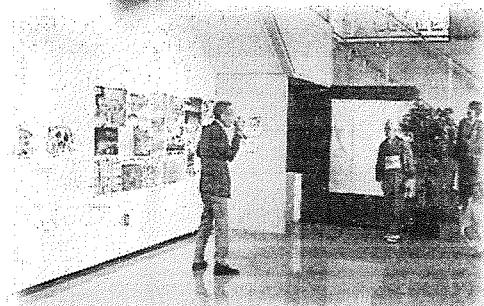
1. 日 時

- ・平成 27 年 6 月 6 日(土) 14:00~15:10 (10 分超過)
- ・参加者数 35 名 (内:こども 4 名 / 市内参加者 5 名)  
＊申込不要、参加費無料 (ただし要入館料)



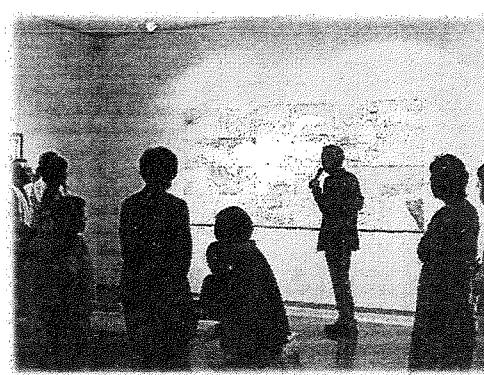
2. 内 容 \*開催次第は別紙「タイムスケジュール」を参照

- ・出品作家である斎藤一郎氏から作品制作にまつわる逸話をお話しいただき、参加者と共に作品鑑賞した。会場内の 3カ所で斎藤一郎夫人・和子氏による朗読があり、作家本人の話に添えるかたちで、制作に携わった方々の思いが披露された。(I : 1F 展示室 (はないかだ、雪消)、資料展示前付近)
- ・1F 展示室をメインとし、2F ギャラリーは 1F に展示した作品の習作として紹介した。1F 展示室の冒頭で制作技法や材料のこと (縄文の土、発色等) に触れ、以降は各作品の制作にまつわるエピソードや作品名を決めた経緯など、自身の内面的な部分に迫る内容が中心となり、最後には本展の副題と同名作品「やまふところ」で締めくくりとした。
- ・最後は 1F ロビーにて、4 月末に実施したワークショップのことに触れ、参加者の作品を見ながら「土」について語った。



3. 成 果

- ・参加者の大半は遠方から来た斎藤夫妻の知人で、市内参加者は数名だった。
- ・今回のギャラリートークについて斎藤氏は、技法や芸術論に偏らず、人のココロを主体とし情感に訴える内容としたいと話しており、冒頭以外は自身の体験を多く交えながら進められたため、参加者はリラックスした雰囲気で楽しんでいる様子だった。
- ・斎藤氏の提案によりギャラリートークの合間に朗読を入れたことで鑑賞の切り替えが円滑に進み、メリハリができたことによって参加者はいっそう鑑賞に没頭している様子だった。



4. 課 題

- ・ワークショップ同様、地元の参加者がほとんどいなかつたことに対し、内山紙の里として、美

術館で今後の活動を発展させていくにああたり、内山紙や和紙について地元市民の関心を高める必要性を改めて感じた。

- ・ワークショップやギャラリートークは、会場まで足を運ぼうと思う程度に関心の高い人が参加するのであり（県外者多数）、地元市民に対しどのような方法で和紙への関心を引き付けるかが、今後の重要な課題の一つである。

## 5. その他

- ・動画撮影、静止画撮影、音声録音（一部）
- ・取材関係（i ネット飯山／北信ローカル）
- ・齋藤一郎氏の意向により、紙漉き等に携わる人（飯山和紙研究会等）を対象としたギャラリートークを開催（非公開：6/7(日)13～16 時・参加者 16 名）。制作技法や材料のことを中心に、道具の工夫、表現効果の試行等について話を伺った。

作家の話に耳を傾けながら作品を鑑賞する



# 作品は『一期一会』

飯山市出身の和紙作家、齋藤一郎さんが6日、自らの作品展が開催中の飯山市美術館を訪れ、ギャラリートークを行った。

齋藤さんは1938年(昭和13)田岡山村下境に生まれ、飯山北高、多摩美術大学油絵科を卒業。凸版印刷に入社し、海外出張中に和紙の美に出会い、以来30年以上にわたって創作を続けてきた。1991年には鳥取県青谷町に制作拠点を構え、コウゾを使い、土で彩色する手法を取り入れ、93年に定年退職してからは国内外で個展やグループ展を開催するなど活躍している。

この『齋藤一郎展』では近年の作品を中心に60作品を展示。ギャラリートークでは、縞文時代の土や鉄分が豊富な土及び染色の素材との出会いは一期一会であることや、イカズミを使う新たな技法、紙を立体的に漉いて制作する過程などを説明したほか、作品に表現された物語を解き明かしながら、「作為什麼がなければ失敗もない」「自然のものは温かい」など製作活動を通して感得した世界観についても語っていた。

作品展の会期は28日まで。入館料は一般300円。月曜日は休館。開館時間は午前9時から午後5時。

## 作品展 28日まで



作品に表現された「思い」について語るなどした齋藤さん

トルリシジミ  
正因の放生池(奥)と開運(左)。

現在開催中の「Beyond  
ndthepaper『やあや』」

### (3) 平成 28 年度以降の計画（案）について

#### ① 平成 28 年度

#### ② 平成 29 年度

（仮称）中川岳二展（案）

◇会期：平成 29 年 9 月上旬～11 月上旬 \*会館日数 50～60 日程度

◇内容：

中野市在住の木工作家を紹介。樹木の色や木目を活かし、その組み合わせにより文様などを描く寄木・木象嵌という技法で作品を制作し、作品の大きさに関わらず、すべてにおいて精巧で緻密な精度の高い作品の数々を展示する。大学卒業後に祖父母がいた中野市へ移住し工房を開設したが、生活と制作の両立、自身の制作活動の方向性に苦悩していたとき、たまたま飯山市内のギャラリーで作品展を開催し、このときの『出会い』や『経験』が現在の創作活動に影響を与えていたこと。

現在の活動の原点が飯山で開催した作品展であったことから、飯山市美術館で企画展を開催したい。「ずっと大切にしてもらえるもの、子供のためになるものをつくりたい」という思いから生まれた作品の数々は、子供のみならず大人や高齢者まで幅広い評価を得ており、既に国内外で活躍している。今後ますますの活躍が期待され、飯山でもぜひ紹介したい若手作家のひとりである。これまで各地で個展やグループ展を行い紹介してきた作品に加え、飯山ならではの作品を制作するとのことで、この地にちなんだ新作が期待される。また会場内には、実際に手で触れて遊ぶことのできるプレイスペースを設ける予定である。

◇中川岳二略歴：別紙参照

#### ③ 平成 30 年度

（企画展構想として）

飯山市の地域性や特色を反映した企画展を不定期であっても継続していくことが必要と考える。郷土の伝統工芸である和紙は、『斎藤一郎展』の開催経験からもワークショップや企画展のテーマとしていく価値が高い実感を得ており、和紙に関する企画を検討していきたい。



平成 29 年度飯山市美術館企画展  
(仮称) 中川岳二展開催概要 (案)

飯山市美術館

1. 企画展名 『(仮称) 中川岳二展』 \*副題を含め今後検討
2. 会期 平成 29 年 9 月上旬～11 月上旬 \*会館日数 50～60 日程度
3. 内容趣旨

埼玉県出身で中野市在住の木工作家を紹介する。

樹木の色や木目を活かし、その組み合わせにより文様などを表現する寄木・木象嵌よせぎ もくぞうがんという技法で作られる作品は、高度な技術力による精巧な仕上がりと特徴的な形姿が魅力で、国内外の幅広い世代から高い評価を得ている。

中野市への移住直後に飯山市内のギャラリーで作品展を開催しており、このときの『出会い』や『経験』が現在の創作活動に影響を与えていたこと、現在の活動の原点が飯山であったことから、中川氏にとって初の大規模な作品展を当地にて開催する。これまで個々に発表してきた大型作品を一堂に展示するほか、北信地方にちなんだ新作を展示予定。また「ずっと大切にしてもらえるもの、子供のためになるものをつくりたい」という思いで制作を続ける中川氏が影響を受けたという組み木デザイナー・小黒三郎氏の作品を併せて展示し、両者の作品を実際に手で触れて遊ぶことのできるプレイスペースを設ける。

\*小黒三郎氏の作品は「ズートピア信州」(中野市)より借用。小黒三郎氏とズートピア信州の池田館長には、中川氏から打診しており、企画展協力および作品の貸与について了承を得られたとのこと。

4. 会場 飯山市美術館  
[ 1 階展示室：中川岳二氏の作品展示  
1 階ロビー：プレイスペース  
2 階ギャラリー：組み木デザイナー小黒三郎氏の作品展示 ]
5. 主催 飯山市、飯山市教育委員会
6. 後援 信濃毎日新聞社、北信ローカル、北信濃新聞社、公益財団法人八十二文化財団、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、飯山商工会議所、飯山市芸術文化協会、i ネット飯山、信州いいやま観光局
7. 協力 中野市、中野市教育委員会  
\*企画展チラシの全戸配布(中野市)、中野市内公共施設への企画展チラシ・ポスターの掲出について、今後相談する。
8. 開館時間 午前 9 時～午後 5 時 (入館は 4 時 30 分まで)
9. 休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝祭日の場合は翌火曜日が休館)
10. 入館料 一般 300 (200) 円、小中学生 200 (100) 円※ ( ) は 20 名以上の団体料金
11. 連絡先 飯山市美術館 (TEL/FAX : 0269-62-1501)

## ■作家略歴■

中川 岳二（なかがわ たけじ）

1978年 長野県生まれ埼玉県育ち

2000年 丹波の森ウッドクラフト展 優秀賞

2001年 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科木工専攻卒業

2004年 全国木のクラフト展 特別賞

2005年 6<sup>th</sup> S.I.C.F. 審査員特別賞

2006年 テイクジー・ブロック、テイクジー・ズー販売開始

2007年 松屋銀座「シーズンスタジオ」にて個展

「スペース アルテマイスター」にて個展

2008年 「ギャラリーミタテ」にて個展

2012年 『NAGANO 新 CONCEPTUS—長野ゆかりの若手アーティスト 10 人展—』出展（志賀高原ロマン美術館にて）

テイクジー・トイズを「中川岳二」と「テイク・ジー」に分けて活動をはじめる。

2013年 『信州の工芸作家展 4人の作家の表情』出展（世界の民俗人形博物館にて）

2014年 自宅ギャラリーにて個展『こてんこてん展』（中野市で2回目の個展）

### 作品について

中川岳二の作品は寄木・木象嵌という技法によって制作されています。寄木・木象嵌とは、樹木特有の色や木目を活かし、その組み合わせによって文様など描く技法です。ケヤキ・ウォールナット・ホワイトアッシュ・チークの4種の木を、配色に合わせてそれぞれの厚さ、大きさに製材しクランプで圧着します。顔などに目や数字の下穴を開け、正確に切り出した材料をはめ込みます。それを顔や体の形に削り出し、オイル塗装で仕上げています。

(<http://nakagawa.take-g.com/profile> 中川岳二 HP より)

### 制作活動について

- 自身の作家活動は『中川岳二』として作品を発表し、スタッフと共に活動する木製品製造販売会社(おもちゃ／家具)『テイクジー』では、商品としての木製品を制作している。
- もともとは家具職人として生きていこうと考えていた作家の転機は、大学3年のときに授業で出された課題だったとのこと。『機能』から離れ、飾るためだけのものを作るという課題だった。とはいえ、日常の自分からかけ離れたオブジェ等の作品にはしたくないと思い、考案したのが『ロボット』で、教授陣の評価も高く、なにより自分の中でも手ごたえを感じた経験だったとのこと。

この経験が原点となり、現在の制作活動に通じているとのこと。

### 飯山との縁

父親の生家のある長野県に工房を構えたころ、奥さんとの2人展を飯山(@ギャラリー白銀)で開催した。その時に井端さんと出会い、以後お付き合いが続いている。長野での活動のスタートが飯山での作品展であったという位置づけで、当館での企画展を計画したい。

#### (4) 作品寄付受け入れについて

- ① 岩上隆静作品 1 点の寄付採納手続き中（寄付採納審査委員会へ申請中）

種類：水彩画

作品名：『山里の春』

サイズ：縦 35.0 × 49.5 センチメートル

額装：額装済み、画面にアクリル板有り

その他：

岩上氏本人が平成 12 年に発行した『画文集・千曲川』に掲載されている“千曲川シリーズ”と呼ばれているうちの 1 点で、岩上隆静氏の代表作と言える作品です。



- ② 高橋正義氏ぐい呑みコレクション 1,400 点の受け入れが完了

- ・平成 27 年 3 月 30 日に開催された寄付採納審査委員会において受け入れが決定（今後の予定）
- ・7 月 3 日以降に正確な数量の確認及び写真撮影を行いリスト作成。
- ・展示予定及び保管場所の検討など

# 作家一覧【現役】

\* 作家名50音順

\* 2015/6/19現在 飯山市美術館

No.	作家名	種別	出身地	在住地	展示実績		備考	収蔵有無
					企画展	ギャラリ-展		
1	青木勇治	絵画 油彩	飯山市	長野市				—
2	池田春男	写真 人物/風景	飯山市	神奈川県		H23 個展		—
3	いとうまき	絵画 イラスト	飯山市	同		H17 個展		—
4	猪瀬清四郎	彫刻	飯山市静間	東京都	H16 飯山の美術家展 H22 北信濃に原風景を見た美術家たち			有
5	内田寛	絵画	名古屋市	同	H21 五郷分校の作家たち展	H16 グループ H17 個展	五郷研修館使用	—
6	浦野吉人	絵画 油彩等	飯山市	長野市	H13 浦野吉人展 H16 飯山の美術家展 H22 北信濃に原風景を見た美術家たち			有
7	碓井昭男	工芸 陶芸	飯綱町	同		H23 個展		—
8	大塚可南	書道 一	飯山市木島	同	H16 飯山の美術家展			—
9	岡本邦治	絵画	飯山市	東京都				—
10	川口昇	絵画 油彩	飯山市	同	H16 飯山の美術家展			—
11	川口和平	写真	飯山市	長野市		H24 個展		—
12	含翠会	絵画 日本画	—	—	H11 含翠会展		長谷川青澄一門	—
13	北岡康隆	絵画 日本画	中野市	同				—
14	木原正徳	絵画 油彩	飯山市 太田	山形県	H16 飯山の美術家展 H20 木原正徳・野口俊文二人展 H22 北信濃に原風景を見た美術家たち			—
15	栗田貞多男	写真 自然風景	長野市	同		H27 個展		—
16	小林敬一	写真	飯山市常盤	同				—
17	小林野々子	絵画 行尸等	長野市	同		H25 個展		—
18	小林宏	絵画 日本画	飯山市木島	山梨県	H22 北信濃に原風景を見た美術家たち			—
19	駒村久彌	絵画 油彩	飯山市	同	H12 駒村久彌展 H16 飯山の美術家展			有
20	小山オサム	絵画 油彩	飯山市	静岡県	H16 飯山の美術家展 H22 北信濃に原風景を見た美術家たち	H14 個展		—
21	斎藤一郎	絵画 和紙絵画	飯山市 岡山	千葉県	H11 斎藤一郎展 H16 飯山の美術家展 H22 北信濃に原風景を見た美術家たち			有
22	酒井和子	絵画 水墨	飯山市柳原	東京都		H18 個展		—
23	柴田長俊	絵画 日本画	上越市	軽井沢町	H22 北信濃に原風景を見た美術家たち H25 祈りの風景柴田長俊展		飯山北高校卒業	有
24	関修	写真 人物/風景	飯山市	同		H22 個展		—
25	関智生	絵画	奈良県	名古屋市		H17 個展		—
26	瀬島匠	絵画	広島県因島市	東京都	H21 五郷分校の作家たち展	H16 グループ		—
27	高橋まゆみ	— 創作人形	長野市	飯山市	H16 飯山の美術家展			—

# 作家一覧【現役】

\* 作家名50音順

\* 2015/6/19現在 飯山市美術館

No.	作家名	種別	出身地	在住地	展示実績		備考	収蔵 有無
					企画展	ギャラリー展		
28	滝純一	絵画 テンペラ等	木島平村	福岡県	H16 飯山の美術家展		飯山北高校卒業	—
29	田窪恭治	風景美術	愛媛県今治市	習志野市			H26 飯山市内菓子店壁画等	—
30	田中渉	絵画 油彩	飯山市木島	同	H16 飯山の美術家展			—
31	千坂経悦	陶芸	宮城県	飯山市	H16 飯山の美術家展			—
32	中川岳二	木工	埼玉県	中野市				—
33	野口俊文	絵画 油彩等	木島平村	長野市	H20 木原正徳・野口俊文二人展 H22 北信濃に原風景を見た美術家たち		飯山北高校卒業	—
34	長谷川豊	工芸 陶芸	東京都	飯山市	H16 飯山の美術家展			—
35	馬場剛史	絵画	中野市	同			H15 個展	—
36	原田卓三	絵画	愛知県	大阪府	H21 五郷分枝の作家たち展	H16 グループ		—
37	藤岡牧夫	絵画 行スト	木曾谷	東京都				—
38	藤巻翔	写真 アウトドア フォトグラファー	飯山市	神奈川県			H26 個展	—
39	松澤芳宏	絵画 油彩等	飯山市 静間	同	H16 飯山の美術家展 H24 北信濃道遥の画家たち展			—
40	丸山高司	絵画 日本画	飯山市	同			H17 個展	—
41	丸山東子	絵画 日本画	サハリン 飯山育ち					—
42	森川賢道	工芸 錫金/茶道具	須坂市	京都府				—
43	森田千晶	工芸 和紙		埼玉県			和紙の仕事大賞	有
44	山田真巳	絵画 日本画	東京都	同				—
45	柳沢京子	絵画 切り絵	北佐久郡浅科村	長野市				有
46	柳澤秀紀	絵画 リアルイラスト	長野市 (旧豊野町)	長野市			H15 個展 H20 個展	—
47	吉越蘆師	絵画 日本画 水墨画	飯山市常盤	同	H16 飯山の美術家展 H24 北信濃道遥の画家たち展			—
48	鶴森秀樹	絵画 油彩	飯山市	フランス				有

# 作家一覧【物故】

\* 作家名50音順

\* 2015/6/19現在 飯山市美術館

No.	作家名	種別	出身地	活動拠点	展示実績		備考	収蔵有無
					企画展	ギャラリー展		
1	相原求一朗	絵画	油彩	川越市	同	H10 相原求一朗展 H18 相原求一朗展		遺族川越市在住 有
2	岩上隆静	絵画	水彩	飯山市	同	H14 岩上隆静展 H16 飯山の美術家展 H24 北信濃逍遙の画家たち展	H26 追悼展	
3	岡田千春	絵画	油彩	飯山市	同	H16 飯山の美術家展 H24 北信濃逍遙の画家たち展		遺族飯山市在住 有
4	岡登 貞治	絵画	油彩	飯山市	東京都			常設展示 有
5	小野沢健一	彫刻	木造	飯山市	神奈川県	H16 飯山の美術家展		H26.5.31逝去 有
6	金木寿遷	書道	一	飯山市	同	H16 飯山の美術家展	H23 個展 H23 新収蔵品展	遺族飯山市在住 有
7	河野文夫	絵画	油彩	佐賀県	野沢温泉村	H15 河野文夫展		
8	岸田陸象	彫刻	仏像	飯山市				遺族埼玉県在住 一
9	児玉果亭	絵画	日本画	山ノ内町				
10	小林起一	コンセプチュアル		飯山市	同	H16 飯山の美術家展	H22 追悼展 H23 新収蔵品展	
11	佐久間雲窓	絵画	日本画		飯山市			飯山藩士の子息 一
12	佐藤武造	絵画	水彩/漆画	飯山市	伴ひ 東京都	H12 佐藤武造展	H20	遺族東京都在住 有
13	武田雲室	絵画	日本画					市内光蓮寺出身 一
	武村次郎	絵画	油彩	横須賀市				飯山の風景画 多数制作 有
14	寺瀬黙山	彫刻	木造/乾漆	飯山市	中野市			遺族中野市在住 有
15	白隱	絵画	禅画	駿河国	同	H12 特別企画展白隱禅師		正受庵で修業 一
	長谷川青澄	絵画	日本画	飯山市	東大阪市	H9 長谷川青澄展 H10 長谷川青澄展 H16 飯山の美術家展 H17 画人長谷川青澄追悼展 H19 長谷川青澄挿絵原画展 H23 画人長谷川青澄の世界 H26 没後10年記念展	H16 個展 H20 個展 H23 新収蔵品展	遺族東京都在住 有
17	本多焦風	絵画	日本画					飯山に疎開 有
18	松田暢夫	絵画	油彩	飯山市	大町市			
19	村山弘	絵画	油彩	飯山市	名古屋市		H23 新収蔵品展	
20	三ツ井愛之輔	絵画						飯山中学教員 一
21	宮澤鉄夫	絵画	日本画	飯山市	東京都	H9 宮澤鉄夫企画コーナー		
22	箕口博	彫刻	木造	飯山市		H23 箕口博彫刻展	H19 個展 H23 新収蔵品展	遺族滋賀県在住 有
	山本直治	絵画	油彩	大阪府	大阪府			飯山の風景画 多数制作 有
23	森本香谷	絵画						飯山中学初代美術教師 (有)
24	山田晃	絵画	水彩	中野市				
25	横井弘三	絵画	油彩	飯田市				有

入館者内訳(人)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
4月	664	885	827	933	633	630	970	780	975
5月	566	515	505	425	821	341	504	620	722
6月	226	349	215	256	454	432	455	269	
7月	505	1,033	464	655	753	579	510	903	
8月	847	521	152	849	731	844	716	834	
9月	725	595	617	978	961	787	513	822	
10月	1,870	2,735	2,372	2,950	2,053	1,608	1,600	1,189	
11月	659	1,070	506	723	393	483	563	486	
12月	176	80	196	176	39	139	238	171	
1月	128	61	57	60	178	63	63	118	
2月	112	114	65	70	138	179	151	120	
3月	295	77	112	53	146	269	215	452	
合計	6,773	8,035	6,088	8,128	7,300	6,354	6,498	6,764	1697
					H9～累計	145,021	151,519	158,283	

大人	935	1,024	684	1,142	1127	1282	1104	1199	
小中	14	32	16	32	22	22	23	51	
大人団体	449	716	699	975	592	337	276	179	
小中団体	407	210	251	299	231	278	114	112	
無料	3,231	3,866	2,739	3,789	3,532	3,156	3,235	3,006	
大人共通	576	856	561	640	557	556	337	258	
小中共通	19	22	45	14	24	23	7	11	
大人団体共通	359	271	361	343	398	247	96	131	
小中団体共通	783	1,038	732	894	817	453	170	460	
4館共通大人							1030	993	
4館共通小中							24	41	
4館共通団体大人							82	113	
4館共通団体小中							0	210	

入館料合計	678,750	815,870	635,070	859,570	754,540	699,550	779,300	820,540	
-------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--

開館日数	299	299	300	299	273	300	299	313	
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--



## ○飯山市伝統産業会館条例

昭和57年6月25日条例第22号

改正

昭和61年3月19日条例第7号  
 平成元年3月25日条例第19号  
 平成9年3月21日条例第10号  
 平成12年3月27日条例第1号  
 平成18年3月27日条例第15号  
 平成18年6月30日条例第35号  
 平成20年3月26日条例第12号  
 平成26年3月26日条例第1号

## 飯山市伝統産業会館条例

(趣旨)

**第1条** この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)の規定に基づき、伝統産業会館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

**第2条** 伝統的工芸品産業の健全な発展に寄与し、及び郷土に所縁のある芸術家の美術品等を収集し、保管し、又は展示して市民の利用に供するとともに、その教養及び調査研究に資するため、伝統産業会館を設置する。

(名称及び位置)

**第3条** 伝統産業会館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
飯山市伝統産業会館	飯山市大字飯山1,436番地の1

(施設)

**第4条** 伝統産業会館に次の施設を置く。

(1) 伝統的工芸品展示館

(2) 美術館

(入館料の納付)

**第5条** 伝統産業会館の展示資料を観覧する者は、入館料を納付しなければならない。

(入館料の額)

**第6条** 前条の入館料の額は、次のとおりとする。

区分	一般・高校生	小・中学生
個人	300円	200円
団体(20人以上)	200円	100円

2 飯山市ふるさと館条例(平成17年飯山市条例第30号)第3条に規定する飯山市ふるさと館と併せて入館する場合の入館料の額は、前項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

区分	一般	小・中学生
個人	240円	160円
団体(20人以上)	170円	80円

3 前2項の規定にかかわらず、特別展の場合においては、その都度定める額を徴収することができる。

(入館料の減免)

**第7条** 市長は、特に必要があると認めるときは、前条の入館料を減免することができる。

(遵守事項)

**第8条** 入館者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 伝統産業会館の施設又は備品を損傷し、又は汚損しないこと。

(2) みだりに展示資料等に触れないこと。

(3) 伝統産業会館内においては、静粛にし、他人に迷惑をかけないこと。

(4) 火気の使用及び所定の場所以外で喫煙はしないこと。

(5) 許可なく展示資料の撮影、模写等を行わないこと。

(6) 前各号に定めるもののほか、伝統産業会館の秩序の維持について市長が指示すること。

2 市長は、入館者が次の各号のいずれかに該当するときは、退館を命ずることができる。

(1) 前項の規定に違反したとき。



(2) その他管理上必要があるとき。

(施設の使用)

**第9条** 市民の芸術及び文化活動を奨励し、広くその普及並びに振興を図るため、ギャラリー及びロビー(以下「ギャラリー等」という。)の施設を団体が、美術作品の展示場所として使用することができる。

(施設の使用許可)

**第10条** ギャラリー等の施設及び備品を使用しようとする者は、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

2 市長は、許可するに当たっては、管理上必要な条件を付すことができる。

(施設の使用資格者)

**第11条** ギャラリー等の施設及び備品の使用資格者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 市内に活動の拠点を置く市民団体

(2) その他市長が特に認めた団体

(使用権の譲渡禁止)

**第12条** 使用の許可を受けた者は、その権利を他人に譲渡してはならない。

(使用許可の取消し等)

**第13条** 市長は、次の各号のいずれかに該当するとき又は前条の規定に違反したときは、ギャラリー等の施設及び備品の使用許可を取り消し、又は使用等を中止し、若しくは停止させることができる。

(1) 無断で目的外に使用しようとしたり、又は使用したとき。

(2) 使用に関して係員の指示に違反し、又は使用上遵守すべき事項に違反する行為があつたとき。

(使用期間)

**第14条** 1回の使用期間は、1週間以上3週間以内とする。

(施設等使用料)

**第15条** ギャラリー等施設及び備品の使用料は、次のとおりとする。

区分	ギャラリー	ギャラリー及びロビー	備品(吊金具、展示台及びパネル)
市民団体(1日につき)	3,600円	5,140円	無料
市民団体以外(1日につき)	7,200円	10,280円	無料

(使用料の還付)

**第16条** 既に納付した使用料は還付しない。ただし、天災その他やむを得ない理由により使用しなかった場合は、その使用料の全部又は一部を還付することができる。

(損害賠償)

**第17条** 使用の承認を受けた者は、施設若しくは備品を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。

2 前項の賠償は、市長が認定する。

(職員)

**第18条** 第4条第2号に規定する美術館(以下「美術館」という。)に館長その他必要な職員を置くことができる。

2 館長は、上司の命令を受けて事務を掌理し、所属の職員を指揮監督する。

(美術館運営協議会)

**第19条** 美術館に美術館運営協議会(次項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(補則)

**第20条** この条例に定めるもののほか、伝統産業会館の管理及びこの条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

**附 則**

この条例は、昭和57年8月1日から施行する。

附 則(昭和61年3月19日条例第7号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成元年3月25日条例第19号)

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月21日条例第10号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月27日条例第1号抄)

(施行期日)



1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。(後略)

附 則(平成18年3月27日条例第15号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年6月30日条例第35号)

この条例は、平成18年7月1日から施行する。

附 則(平成20年3月26日条例第12号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月26日条例第1号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(使用料等に関する経過措置)

2 次項から第10項までに定めるものを除くほか、次の各号に掲げる規定は、それぞれこの条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後の当該各号に定める行為に係る使用料、利用料金、手数料等について適用し、施行日前の当該行為に係る使用料、利用料金、手数料等については、なお従前の例による。

(1)~(7) (略)

(8) 第8条の規定による改正後の飯山市伝統産業会館条例第15条の規定 使用

(9)~(25) (略)

